

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 7月2日は、高気圧がサハリン付近から千島近海へ移動する。
- 5日から6日にかけて、低気圧が日本海北部からオホーツク海へ進む。
- 期間を通して、太平洋高気圧が西日本や東シナ海に張り出し、高気圧の縁に沿って湿った空気が北日本や東日本に流れ込む日が続く。

<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 全国的に気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

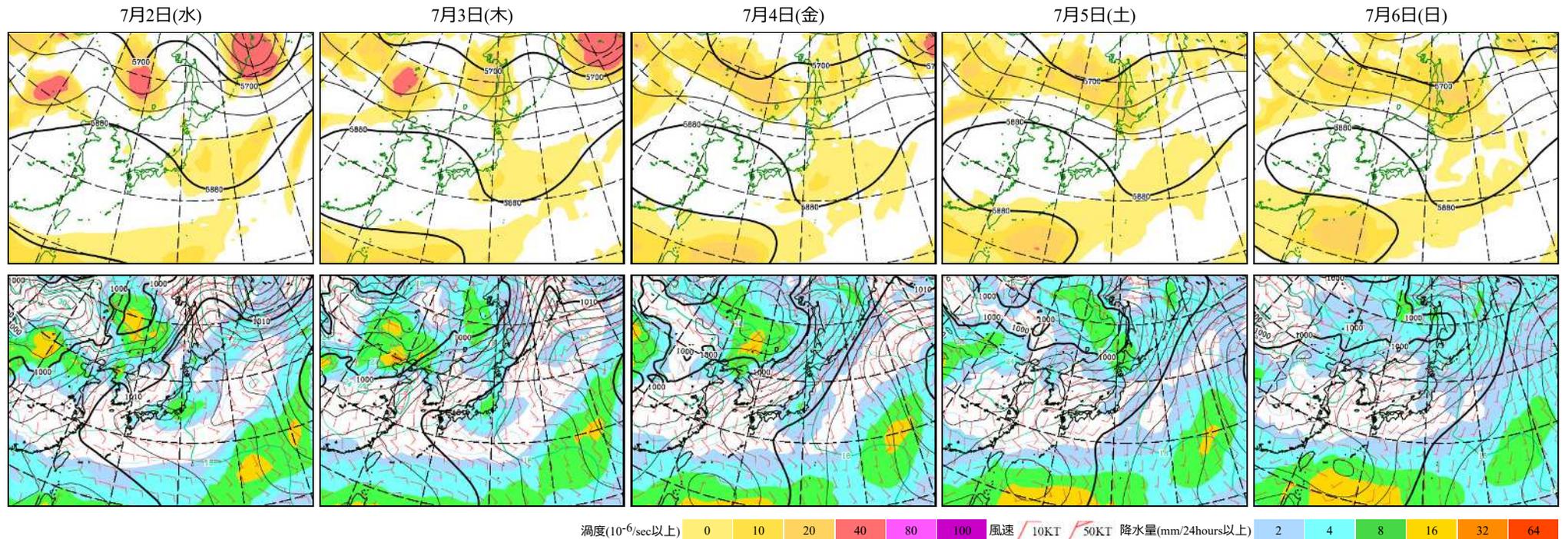
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

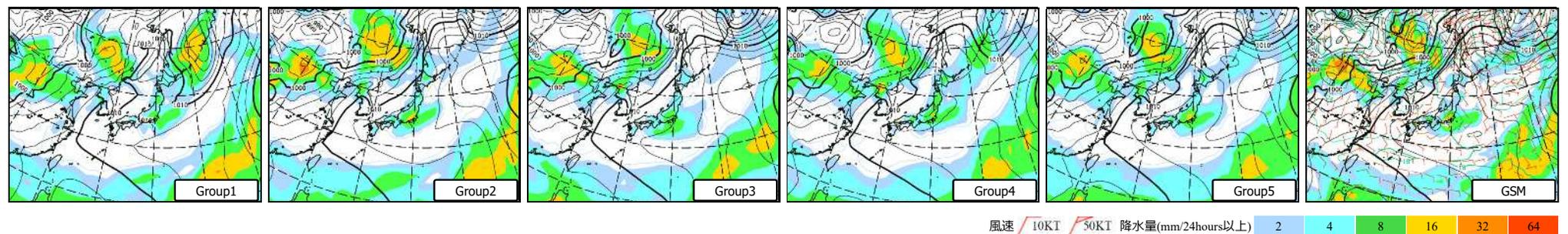


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本は、雲が広がりやすく7月2日と3日は雨の降る所がある。
- 西日本と沖縄・奄美は、晴れまたは曇りとなる。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月2日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、サブハイ (500hPaで5880m) は、期間を通して西日本以西が強まる傾向が見られるが、日本の東ではトラフが深まる傾向が強まった。5日から6日にかけて、気圧の谷または低気圧が日本海北部からオホーツク海へ進む予想が明瞭となった。
- スプレッドは、期間の終わりは大きく各特定高度線のばらつきが大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。